



【釜山支店】

韓国スタートアップ戦国時代 ～前編～

1. はじめに

令和の新時代に入り、早くも4ヶ月が経とうとしています。平成の約30年間で振り返りますと、IT技術の発展による第三次産業革命により、世界ではIT業界、通信業界を中心に多くの巨大企業が新しく誕生しました。

新しい企業の台頭が比較的少ない日本においては、スタートアップ企業の育成が急務となっていますが、韓国においてもスタートアップ企業を中心とした新産業の育成は日本同様、国家的課題であるとされており、官民一体となった支援を進めています。

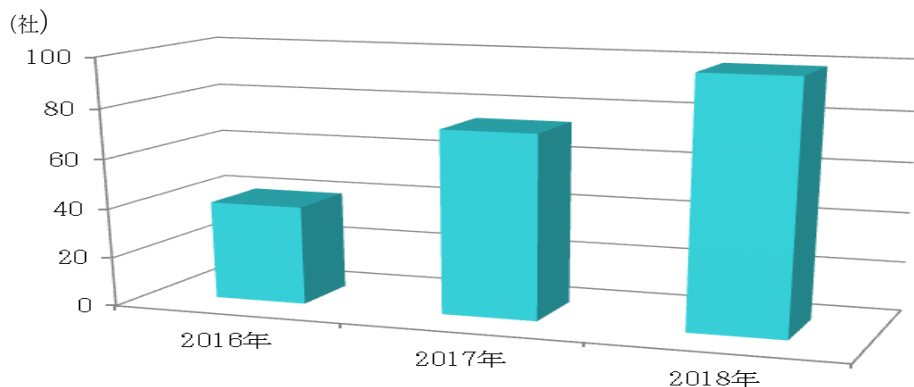
支援の一環として韓国取引所（KRX）^{※1}では、2016年11月にKSM（KRX Startup Market）を立ち上げ、スタートアップ企業への投資円滑化を図っています。現在、ベンチャーキャピタル^{※2}や情報通信産業を中心に登録社数を伸ばしており、2019年1月には100社を突破しました。

今回は、成長著しい韓国のスタートアップ事情、政府や大企業による育成支援についてお伝えし、今後の展望を考察していきます。

※1 韓国取引所 …証券取引所のこと

※2 ベンチャーキャピタル…ベンチャー企業等の未上場企業に対して投資を行い、投資企業の成長をサポートし、上場やM&Aにより収益化を狙うファンドの総称。

【図表1 KSM登録者数推移】



出典：聯合ニュース

2. スタートアップとは？

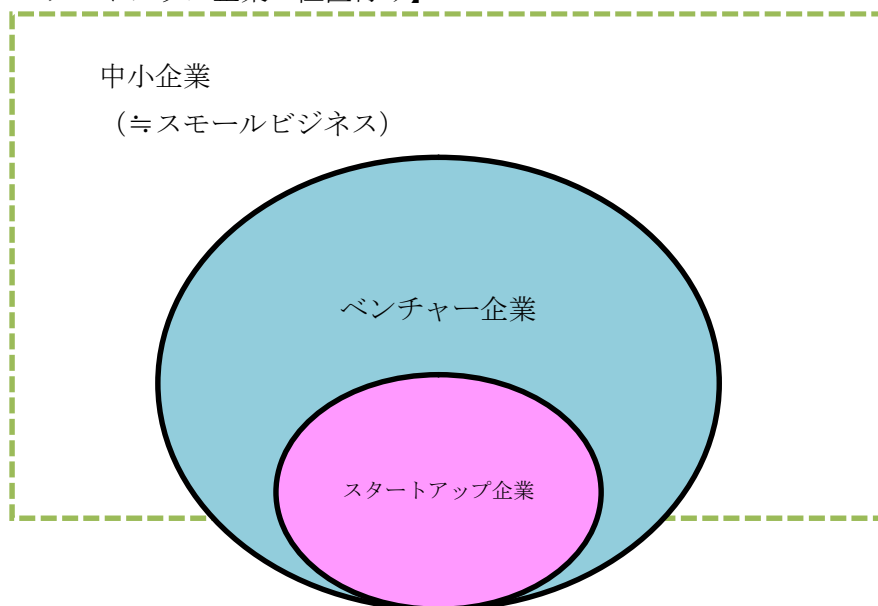
そもそも、スタートアップとはどのようなものでしょうか。ベンチャー企業とは何が違うのでしょうか。

一般的にベンチャー企業が広く「新規開業」をした企業を指すのに対し、スタートアップ企業はその中でも特に「新しいビジネスモデル」を構築し、「急成長」を遂げ、成長後すぐに「Exit 収益（株式売却等による収益）」を志向する企業のことを指します。

勿論、ベンチャー企業の多くは「新しいビジネスモデル」を模索して開業しており、企業価値を高めた後、株式売却を狙う企業もあるため、明確な区別は難しい状況にあります。ベンチャー企業の中でも特に上記要素を強く持つ企業のことをスタートアップ企業として認識するケースが多いようです。

ベンチャー企業およびスタートアップ企業は小規模の人数および資金で開業することが多いため、その殆どは中小企業（≒スモールビジネス）として位置づけられますが、その中で急成長して、大企業となる企業も存在します。特に、新しいビジネスモデルを打ち出し、時価総額 10 億米ドル以上かつ非上場の企業のことを、ユニコーン企業と呼びます。

【図表 2 スタートアップ企業の位置付け】



3. スタートアップ支援の背景

では、何故韓国はスタートアップ企業の育成に注力しているのでしょうか。

韓国では、いわゆる財閥企業が経済成長を牽引しており、2019 年現在でも数少ない財閥企業が GDP（国内総生産）の大半を占めている状況にあります。

産業構造を見ても半導体および自動車製造業に対する依存度が高いことから、大企業に対する依存度の低下および第四次産業革命*の到来に備えるために、新しい技術を活用したビジネスモデルの発掘が求められているのです。

※第四次産業革命…IoT（IT とモノの融合）、ビッグデータ分析、AI（人工知能）による技術革新のこと。

4. 具体的取組み

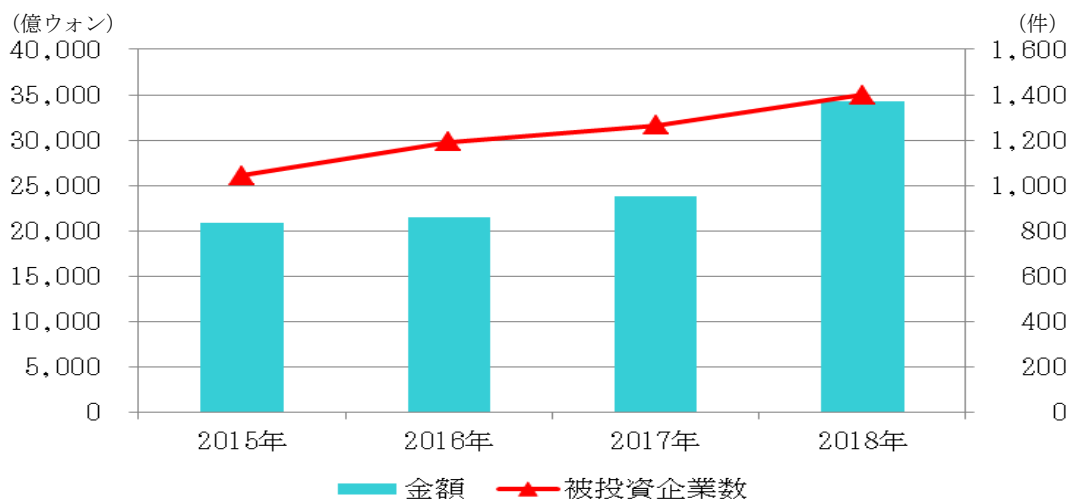
2014年、韓国政府はスタートアップ企業に対する支援のため、創造経済革新センターを19の都市および地域に設立しました。センター内においては教育活動やテストマーケティング等の活動が盛んに行われており、継続して技術革新および新規事業発掘の可能性を模索しています。

また、大企業も積極支援に乗り出しており、決算書（連結）ベース売上高500位以内の監査報告書提出対象企業によるスタートアップ企業への投資額は2016年に2,253億ウォン（約225億円）、2017年に2,164億ウォン（約216億円）、2018年には4,580億ウォン（約458億円）に達し、過去数年間で倍増している状況にあります。

更に、韓国ベンチャー投資協会内にあるベンチャー投資情報センターの統計によれば、2018年のベンチャーキャピタルによる新規投資金額は34,249億ウォン（約3,425億円）に上り、投資を受ける企業数も増加傾向にあります。

このような取組みの結果、2019年7月には、釜山の有望スタートアップ企業6社が釜山創造経済革新センターの支援のもと、カナダのモントリオールで開催された「スタートアップフェス」に出場するほどの成長を見せています。

【図表3 ベンチャーキャピタルによる新規投資状況推移】



出典：ベンチャー投資情報センター統計

【図表4 釜山創造経済革新センター内の様子】



出典：釜山創造経済革新センターホームページ

5. おわりに

以上のように、韓国ではスタートアップ企業に対する積極的な支援が行われており、有望な企業も次々と誕生しています。2019年6月末時点では、9社がユニコーン企業として名前を連ねており、発展の機運が高まっています。

【図表5 韓国のユニコーン企業】

(単位:10億米ドル)

企業名	事業内容	時価総額
クーパン	インターネットショッピング、宅配サービス	9.00
ブルーホール	ゲーム制作(オンラインバトルロワイヤルゲーム等)	5.00
イエローモバイル	格安通信サービス	4.00
ウーワブラザーズ	食事宅配サービス「ペダル(出前)の民族」運営	2.60
L&Pコスメティクス	フェイスパック等化粧品製造販売	1.78
ウィメイクプレイス	通販サイト「ウィメイク」運営	1.33
GPクラブ	化粧品ブランド「JMソリューション」開発	1.32
ビバリパブリカ	口座管理等の金融サービス「トス」提供	1.20
ヤノルジャ	ホテル検索・予約サイト	1.00

出典: The Investor、The Global Unicorn club(調査会社CB Insights内)

スタートアップ企業の資金調達手段は、銀行融資や相対の投資に限らず、クラウドファンディングによる資金調達も多く用いられています。クラウドファンディングの場合は国境を跨いだ投資が容易であるため、今後の成長が有望な企業に対し、日本から投資することも検討可能な状況にあります。

次回、韓国スタートアップ戦国時代～後編～では、数あるスタートアップ企業の中でも成長著しい企業を取り上げ、今後の新ビジネスの可能性についてお伝えしていきます。

(山口銀行釜山支店 小林 正典)

【参考文献】

聯合ニュース

<http://news.einfomax.co.kr/news/articleView.html?idxno=4010720>

内閣府 第四次産業革命について

https://www5.cao.go.jp/keizai3/2016/0117nk/n16_2_1.html

S-Korea 記事

<https://news.goo.ne.jp/article/skorea/world/skorea-48285.html?from=popin>

ノーカットニュース記事

<https://www.nocutnews.co.kr/news/5184941>

東亜ドットコム 記事

<http://www.donga.com/news/article/all/20180423/89757049/1>

The Investor

<http://www.theinvestor.co.kr/view.php?ud=20190124000663>

Global Unicorn Club

<https://www.cbinsights.com/research-unicorn-companies>